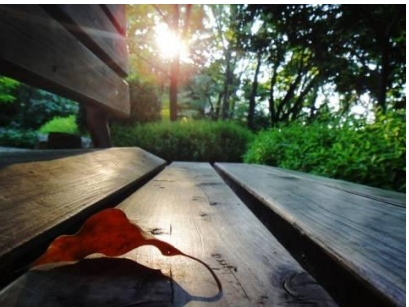


老後は何十年も続くセカンドライフです



超高齢社会を迎えようとする現在、多くの高齢者を含むシニア世代の人々が、その老後の住まい・住まい方に多くの不安を抱かれていると思われる。

老後には、様々な住み方、暮らし方があります。

人生八十年時代、快適に高齢期を過ごすために、住まいづくりは将来の加齢や老後生活の不安に備えた家づくりをしておきたいものです。



老後の理想は不安のない住まい

(株)住環境研究所による全国の55～65歳の男女500名を対象にした「老後の理想の住まい」の調査結果が発表されました。

「老後の住まいにおける不安点」は？

「住まい全体の老朽化」63%

「設備の老朽化」53%

「地震が心配」34%

やはり住宅には「耐久性があり、地震に強い家であること」が求められていると言えるでしょう。言い換えれば、「耐久性があり地震に強い家」は長く住める住まいとなり、結果として老後も安心できる家であると言えます。

「老後の暮らし方」について

「健康に配慮し、いつまでも若々しく暮らす」52%

「光熱費など生活上の経費がお得な暮らし」45%

「家の維持管理が楽な暮らし」44%

経済的不安の対策としては、太陽光発電を搭載した光熱費ゼロの住宅は有効でしょう。また、耐久性が高い住宅であれば、メンテナンスが少なく済むメリットもできます。これらの点を、住宅の新築の際に検討しておく、老後の不安を少なくできるのではないのでしょうか。

老後になってから住宅の心配をしなくてはならないのは、とても不安です。老後も安心して住むためには「長く住める家」が必須です。やはり、環境にもやさしい「長く住める家」は、人にも優しい家といえます。

「200年住宅」のLaLaの家なら、一生快適に過ごすことができます。